平成 29 年（2017 年） 4 月 6 日

前期始業式訓話

皆さん おはようございます。

年度末の成績会議で、新 2 年生、新 3 年生合わせて 108 名が進級することができました。あらためて「進級おめでとうございます」。

さて、例年であれば桃の花が咲き誇り、さらにミツバツツジや桜が開花を待っている時期ですが、3 月半ば以降の冷え込みによりやや遅れているようです。うまくすれば桃、ツツジ、桜が一斉に開花を迎えることになるかもしれません。それを楽しみに待ちながら、満開の時期を迎えたら天白公園やツツジ公園、あるいは桜並木のある南木曾発条の前あたりを散策するのもいいかもしれません。

皆さんご存知の通り、昨年一年間は教頭として職員室にいましたし、この 4 月からは校長室にいますので、私が何の教科で、どんなことを教えていたのかわからないと思います。実は、私は地歴公民科の教員で、日本史、世界史、地理、政治経済、倫理などを教えていました。小学生のころから歴史は好きだったのですが、大学で歴史を学ぼうと思ったのは高校三年の時期でした。ここ蘇南高校で私の日本史の教科担任は油井先生という方でしたが、その先生の授業に大きく影響を受けました。どんな授業であったかは別の機会にお話ししたいと思いますが、大学で歴史学を学んだ結果、当時は社会科、現在では地歴公民科の教員として 29 年間教壇に立つことになりました。

したがって、今でも歴史関係の書物を読むことは好きですし、歴史をテーマにしたテレビ番組等も結構見たりします。昨年 1 年間、NHK 大河ドラマの「真田丸」は欠かさず見ました。私自身、教員生活を現在の上田市で始めたということもあり、毎週日曜日の夜、楽しみにしていました。

今年は「女城主 直虎」が放映されています。真田丸より少し前の時代を描写していますが、これもなかなか面白いですね。4 月からは、柴咲コウ扮する「おとわ」が井伊家の領主直虎として激動の時代をどう生きていくか、今後のストーリー展開がとても楽しみです。

この番組はお正月に第 1 回目の放送がありましたが、その折に私の耳にこび

りついて離れないフレーズ、台詞がありました。そのフレーズは、毎回毎回出てくることはないのですが、でもこの番組の重要なキーワードになっていると思います。

それは何かというと、「竜宮小僧」という言葉です。女城主直虎がおとわと呼ばれていた子どもの時代に、病弱な亀乃丞に対して「われは亀の竜宮小僧になる」と声をかけていましたし、大きくなってからもことある度に「われは竜宮小僧になる」と言っています。

それでは竜宮小僧とはどんな小僧なのでしょう。NHKの「女城主直虎」のホームページには、竜宮小僧伝説として以下の紹介文が掲載されています。

「人が困っていることを、知らぬ間に手伝ってくれる謎の存在。知らぬ間に田に苗を植えておいてくれたり、洗濯物を取り込んでおいてくれたりする」と紹介しています。これは静岡県浜松市や浜名湖周辺で語り継がれている伝説がもとになっています。(以上、NHKホームページより転載)

すなわち、誰か困っている人がいたならば、その人をそっと助けてくれ、そしてそっと姿を消すのが竜宮小僧なのです。

さて、皆さんの周りには困っている人、助けを求めている人、悲しんでいる人、苦しんでいる人はいませんか。勉強のこと、部活動のこと、進路関係のこと、友人関係のこと、高校年代はいろいろな場面で悩みや苦しみを感じる人が多いと思います。そんな人がいたらそっとさりげなく手を差し伸べて助けてあげる。そんな竜宮小僧に皆さんがなってくれれば嬉しいですね。

自分が竜宮小僧になって誰かを助けられれば、いつか自分の困った時には竜宮小僧に助けてもらえるかもしれない。そんな心遣いのできる集団であって欲しいと心から思います。

1年が終わりかけた時期に、皆さんに聞きます。「今年、誰かの竜宮小僧になりましたか？」と…。